

＜水球陣＞関東学生リーグ決勝トーナメント第1戦

H27.6.7 対国際武道大 @所沢プール

東大 1 1 1 2 計5

国武大 2 1 1 2 計6

得点者：浪間(2)、池亀(1)、梶原(1)、藤目(1)

予選リーグを2位で終え、インカレの出場権を得るために絶対に負けることのできない一戦を迎える。相手の国際武道大学は予選リーグで勝った相手ではあるが、決して油断できるような相手では無い。全員の力を合わせて勝利し、インカレの出場権を勝ち取りたい。

第1ピリオド

序盤は課題の試合の立ち上がりの悪さを克服するため、東大はディフェンスに重きを置き、前半の失点を1点に抑える。追い付きたい東大は、後半退水を誘発すると、タイムアウトをとり、藤目がシュートを決めて追いつく。しかし、ミスをきっかけに相手に勝ち越しを許し、このピリオドを終える。

第2ピリオド

序盤から両チーム共チャンスを得るが、得点に結びつかないなか、中盤に相手の個人技で失点してしまうが、池亀のミドルシュートで追いつく。このまま、互いにチャンスを作るがなかなか点が入らず、東大は退水で得たチャンスをタイムアウトを取って攻めたが、相手の好セーブに阻まれ、そのままピリオドを終える。

第3ピリオド

前半、東大は引いて守ってチャンスを伺うが、逆にこのピリオドも退水で作られたピンチを決められ、このピリオドでも先取点を奪われる。しかし、その後は守護神疋田を中心とした固いディフェンスで相手の得点を許さない。すると、梶原が相手のディフェンスの隙を突いて、シュートを決め、このピリオドも第2ピリオドと同様に同点で終える。

第4ピリオド

インカレの本戦の出場権を得るために勝たなければならない東大は1点ビハインドで最終

第4ピリオドを迎える。早く相手に追い付きたい東大は序盤に浪間が得点を取り、反撃ムードが高まる。しかし、相手にペナルティースローで1点決められる。追い付きたい東大は浪間にボールを集めるが、引いて守る相手になかなか得点を奪えない。すると、パスミスが原因で点を決められ、2点差となる。あとが無い東大はタイムアウトを取り、1点取り返すもここで試合終了となった。

インカレ出場権をかけた大切な試合であるため、死力を尽くして戦った東大であったが、試合に敗れインカレ出場の目標は達成できなかった。しかし、まだ関東学生リーグは3位決定戦が残っているので、必ず勝ってこのリーグを終えたい。最終になりましたが、監督をしてくださった下東さん、そして試合を観に来てくださった林さん、吉田さん、只野さん本当にありがとうございました。

(文責 有松大輔)